

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「当たり前の生活を守る」を理念として一人一人の好み、習慣、こだわりに合わせてケアを実践している	「当たり前の生活を守る」を理念として、都度大切にすることを方針と定めて、日々唱和することで共有と実践を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染拡大予防の為、外出を中止しているの為、地域との交流はほぼ行っていない。	次年度については、コロナ禍以前のように地域の小中学校、保育園などとの交流会や地域に出での買い物などの再開も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓発活動の依頼あれば応じ、法人内他部署主催で周辺地域の方が参加される勉強会で時々、勉強会を開催するが積極的には行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症拡大防止の為、2か月毎に家族や基幹型包括支援センター等に書面にて会議録を郵送し、現状や事故報告、行事レクの様子を写真を掲載している	コロナ禍の間も必要な情報を資料として郵送しています。次年度からは集合しての会議を予定しており、利用者家族も参加者として加わっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターとは連携を取り合っている。グループホーム連絡会とは感染症拡大防止の為、行っていない	地域包括支援センター、堺市介護事業者課の他、コロナ禍では保健所とも適宜に連絡を行い、必要な情報交換や指示を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠は行っているが定期的に勉強会を行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束や虐待、言葉による行動制限などの研修が定期的に行われています。職員から募集した人権尊重に関する標語を掲示して、意識を高めています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で開催の虐待に関する勉強会へ参加し、虐待に対する知識向上に努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修に参加(オンライン)したり必要に応じて役所や関係機関と連携を取り活用できるよう支援している		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。また、不安や疑問を口にしてもらえるようコミュニケーションを取っている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは定期的に連絡を取り、要望等伺う機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置している。	コロナ禍では定期連絡の際などに聞いた希望や要望を必要に応じて会議で検討しています。今後は行事などが復活することで、以前のような家族会も再開させる予定としています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	プラザ会議を月に1回開催し、職員の意見を聞くようにしている。また、職員面談の機会もある。	定期的な職員面談や会議などの機会以外でも、普段から管理者などが相談を受けやすい職場環境となっていることが、職員の話しからも把握できます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望には柔軟な対応が出来るよう努めている。また、身体状況に応じて職員配置を考えている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員研修や勉強会に参加している。必要時には個々に指導している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前は2か月毎に1回、美原区、東区のグループホーム会議に参加していたが、近年は感染症拡大防止の為に行っていない。同法人内の勉強会を開催(オンライン)		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に面接を行い本人が困っている事や要望等を聞きながら信頼関係を構築するようにしている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に面接を行い家族が困っている事や要望等を聞きながら信頼関係を構築するようにしている。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の際に聞き取り調査を行い出来る限り近づけるように努力している。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気と関係作りに務めている。	
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントは多々中止になっているが、家族との連絡は密に行い本人を支えていく関係を築いている。	
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	要望があれば家族や友人、知人と電話での交流を行えるよう支援している。	入所前に別の施設で一緒だった利用者には、その関係性が保たれるよう配慮しています。コロナの緩和に合わせて、慰問や外出などの再開も予定しています。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者同士の交流や職員によるギター演奏などでみんなで歌を歌い全体での交流の支援に努めている。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も色々な事を相談される事があり、必要に応じて相談や支援に努めている。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を尊重するように努めている。	以前からの手芸や制作の趣味なども、残存機能に合わせて継続できるように配慮しています。食事などの嗜好も献立に反映できるよう担当者に伝えていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所前に利用していた事業所や病院からの情報収集を行い、入所時には家族に生活歴や環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを行い毎日のミーティングや会議で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人からアセスメントを行い職員や主治医からの意見を反映し介護計画を作成している。	計画作成担当者が担当の介護職員などと検討した介護計画を、職員で共有して提供しています。モニタリングなども介護職員と情報共有して作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に本人の様子等記録して、職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人のその時の要望・状況に応じて出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は出来ない (感染症拡大予防を考慮)		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科・歯科・眼科・皮膚科の往診がある。家族の希望があれば同席してもらい家族も現状を理解しやすいように支援している。	協力往診医以外にも、以前からのかかりつけの病院などにも、家族との連携や医療情報を共有することで、通い続けられるよう支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常的に看護師と連携を取り利用者の様子を情報提供している。状態の変化があればいつでも相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は同行して病院関係者に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について、家族・本人に同意を取っている。終末期にはその都度、主治医と連携を取りチームで支援に取り組んでいる。	利用者や家族の意向に合わせて、協力医や看護職員との連携の下、年間で数件の実績で事業所での看取りにも積極的に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時や事故対応について研修や勉強会を行い、緊急連絡先の把握に努めるよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施、地震の対応などは掲示している。法人本部倉庫にて食料等の備蓄も行っている。	消防訓練の実施以外にも、BCPに関連して他の災害にも備える準備を進めています。法人全体で防災委員会を開催し、備蓄物品なども整えています。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人の人格を尊重し声掛けや対応を行っている。その人の自尊心を傷つけないように指導している。</p>	<p>定例研修などを通して、言葉かけや入室時のノックなどプライバシーや個人の尊厳の保持などについて学び、日頃からチームで声を掛け合って実践しています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の希望や思いを尊重し、自己決定出来るように声掛けや働きかけを行っている。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れ（マニュアル）に沿って過ごしてもらっているが要望があれば柔軟な対応をしている。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>2カ月毎に散髪に来てもらっている。衣服等は本人に選んでもらい季節に合った服装が出来るように支援している。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>定期的におやつレクを実施して職員と一緒に利用者自身で盛り付けや片付けを行っている。</p>	<p>他のGHでは減ってきたユニットで介護職員による調理にこだわって継続しています。食事の感想や個人の嗜好についても、法人の栄養士に伝えています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養スクリーニングを実施し、一人一人の状態に合わせた食事の提供を行っている。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人一人の口腔状態に応じてケアを行っている。週1回の歯科往診により健康な口腔内を保っている。</p>	/	/

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に毎回記録し個人の排泄パターンを把握しその方に合わせたトイレ誘導を行っている。	個別の排泄表を活用して、できる限りトイレでの排泄ケアを実施し、便秘による体調不良にならないよう、往診の医師などと連携した支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、水分補給の徹底や適度な運動等で便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の入浴日は決めているが、声掛けをした際に拒否等があった時は、本人の希望に合わせて時間や日時の変更を行い柔軟に対応している。	その日の個々の体調に配慮した入浴ケアを実施しています。気分や体調が不良な場合は、翌日に振り替えたり代替ケアの実施もできています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を重視し、その時の様子を見て必要なら休んでもらうように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者の薬情報を閲覧できるようにしている。変更等あれば必ず職員間で共通理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が能力を生かした生活ができるように本人に合った作業をしてもらっている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や天気を考慮し敷地内程度にとどめ、散歩を行っている	広大な法人の敷地内にある事業所の周辺へは、外気浴や清掃などに利用者と一緒に日常的に出たりが、コロナ禍でもできています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には所持してもらい支払いもしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要時(本人が望むなら)電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共同空間に利用者が作成した展示物や行事等の写真を飾り生活感を取り入れている。	共用空間は温度・湿度・空気清浄・換気などを適切に行っています。過ごす場所も利用者それぞれ、時間帯や気分で変えられるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファやテレビ等設置し、新聞・雑誌を見てもらい個々にくつろいでもらえるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の馴染みのある家具を配置し、本人が落ち着く環境を保てるようにしている。	居室内には使い慣れた物が持ち込めるようにしています。コロナ禍で家族の手が入らない状況でも、利用者と一緒に清掃や季節の入替を実施しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のできる事を見つけ、能力に合わせ意欲が感じられる部分は行ってもらえるよう工夫している。		



V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない